

インストラクター室



タイ王国国際園芸博覧会 「関西文化の庭」基本計画について

Royal Flora Ratchaphruek 2006
KANSAI Cultural Garden - master plan

要 約

タイ王国チェンマイ市にて開催された国際園芸博覧会「ロイヤル・フローラ・ラーチャプルック2006」において兵庫県・京都府・大阪府の三府県が共同で日本庭園「関西文化の庭」の出展することとなり、兵庫県立淡路景観園芸学校が基本計画を行った。

研 究 者

小澤 政之

■はじめに

平成18年11月1日から平成19年1月31日の92日間、タイ王国チェンマイ市にて、国際園芸博覧会「ロイヤル・フローラ・ラーチャプルック2006」が開催された。この博覧会において兵庫県・京都府・大阪府の三府県が共同で日本庭園「関西文化の庭」の出展を行うこととなり、海外における日本庭園作庭に実績を持つ兵庫県立淡路景観園芸学校が基本計画を行った。

■関西文化の庭について

「関西文化の庭」は、京都の伝統的な居住空間である町家を構成する露地空間や坪庭空間等の「生活文化」、水の都大阪で淀川を行き来していた「舟運文化」、そして日本の縮図といわれた兵庫の多様な風土と自然環境を支えた「里山文化」をモチーフに、「雅やかさ」「賑やかさ」「穏やかさ」を空間構成し、竹垣・蹲踞・飛石・延段・枯れ流れ・舟着場・岬灯籠等が展開する伝統的な「枯山水」様式とし、来場者に関西の文化を楽しんで頂くことを目的とし計画を行った。

主庭への導入は、延段による引きの長いアプローチとし、日本人特有のスケール感を体感させ、その先に坪庭を配す空間構成とした。

さらに延段を進むと主庭となる。庭は開放的で明るい日本庭園とした。主庭の枯池は水の都大阪を象徴し、かつての淀川の舟運を連想させる船着場を配置した。隣接する栈敷広場や傘は、古くか

ら商いの中心で人や物の交流が盛んな大阪の賑やかな情景を表現した。

栈敷から望む芝生の築山や岩組、植栽、枯れ流れは、多様な気候、風土を持つことから「日本の縮図」と言われる兵庫の豊かな里山の風景を表現し、来場者に安らぎを提供する場として計画を行った。また、庭園内の動線は、幅1~2mで平坦な石や土の舗装とし、庭の中央へ誰でも容易にアクセスできるような、バリアフリー動線を兼ねるものとした。

なお、本庭園は博覧会閉幕後、タイ政府に寄贈され、今後も兵庫県・京都府・大阪府の三府県の文化をタイの方々に発信していくこととなった。

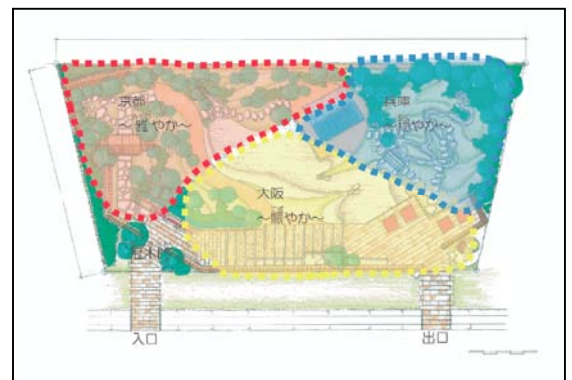


図-1 ゾーニング図



図-2 計画平面図

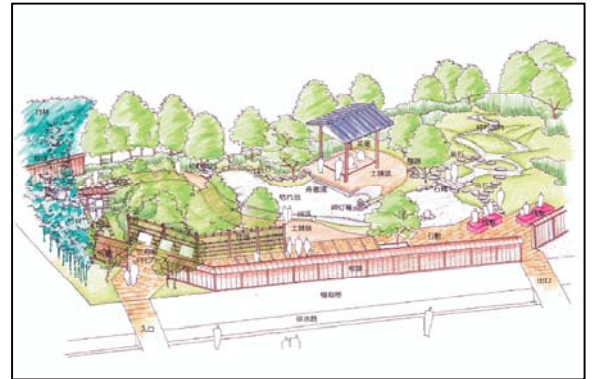


図-3 イメージパース

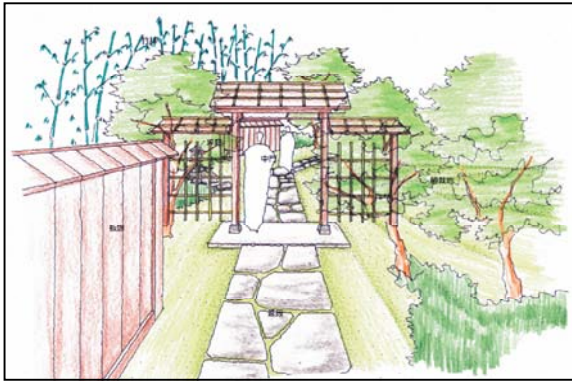


図-4 イメージスケッチ-1

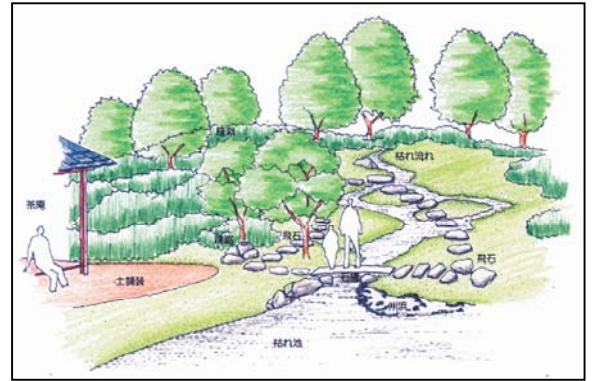


図-5 イメージスケッチ-2



写真-1 枯池全域を望む



写真-2 栈敷部分を望む

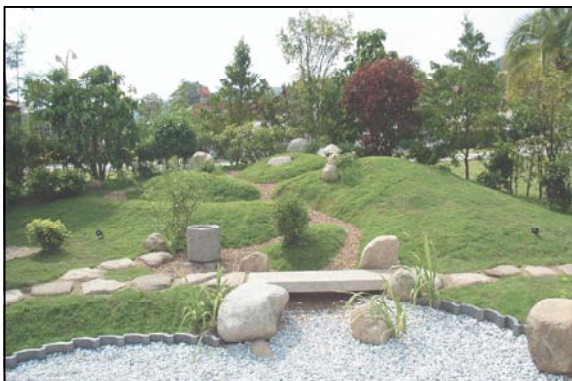


写真-3 枯れ流れを望む



写真-4 茶会イベント状況